第３学年１組　美術科学習指導案

指導者　教諭　石田　穂

１　日時・場所　　令和８年１１月１８日（水）　第５校時・美術教室

２　題　材　名　　「インスタレーション～創（想）造力が響きあう美術の時間～」

３　題材について

（１）本題材は学習指導要領Ａ表現(1)ア(ア)や技能(ア)をねらいとしている。３年生の心の中に確かにありながらも、言葉にできない感情を主題として見つめ、選んだ素材の特性を生かしてインスタレーションで表現する。作品を鑑賞し、鑑賞者が作品の中に身を投じて体験することで、表現者の「ねらい」に気付き、ものの見方や感じ方を深める題材である。自己理解や他者理解につなげたい。SNS や YouTube、昨今は AI の普及により、自分が欲しい知識や体験を手軽に得られる時代になった。授業では多くの言葉やアイディアが飛び交っているが、インターネット上で得た、実感を伴わない知識も少なくない。得られる情報とは一種の栄養である。何を受け取り、何を体験し、そこから何を考えるかは、ものの見方や感じ方など心の成長に深く関わる。多感な時期に、自らの内面から主題を生み出し、素材と向き合いながら表現を工夫することで、その支えとなるのは個々の経験や想像力であることに気付かせたい。自らの感情に想像力を働かせて創造的に表現し、他者の表現を体験的に受け止める経験は、自己実現へと向かい、変化する社会を生き抜く力を養うことにつながると考える。

（２）本学級は男子１８名、女子１２名の学級で、授業中に表現方法について積極的に質問をするなど、探究心があり、美術の授業に前向きに取り組む生徒が多い。また、普段の生活や自身の経験を基に他者にアドバイスする生徒もおり、自然な学び合いの豊かな土壌がある学級である。しかし、学びの過程を振り返る段階になると、周囲の発言から刺激を受けながら授業に取り組むが、自ら設定した主題や制作過程を基に自らの学習への価値付けまでに至らない生徒が多い。個々の経験などを基に主題を生み出すことや周囲と考えを共有して自分の考えを広げることには慣れている。一方で、自らの学びを振り返り、明確に捉えたり、考えたりしようとする感覚が十分に涵養されていない状態である。

（３）以上をふまえ、本題材では以下の点に留意して指導する。

・　使用する素材を制限しないことで生徒がより主体的に学習活動に取り組めるようにする。

・　素材がもつ特有の表情や性質について探究することで素材への関心を深めるようにする。

★　選択肢を示すことで、一人ひとりが個に応じた課題を設定したり、全員が学習課題に向き合ったりできる学習環境を整え、生徒自らの主体性に委ねた学習活動に取り組めるようにする。

◎　表現者の「ねらい」と鑑賞者の「気付き」を結びつける鑑賞の場を設けることで自らの学習への価値づけや新たな気づきにつながるようにする。

４　単元の目標

（１）空間表現の方法を理解し、素材の特性を生かして意図に応じて表現できる。【知識及び技能】

（２）設定した主題に対して構成を工夫し、構想を練ることができる。【思考力、判断力、表現力】

（３）意図に応じた表現方法を工夫したり、相互鑑賞を通して他者の考え方に触れたりすることで学習活動に価値付けをしている。【学びに向かう力、人間性等】

５　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・空間表現の方法を理解し、素材の特性を生かして意図に応じて表現している。 （Ａ表現（2）ア（ア））	・表現者の心情や表現の意図と素材の性質を生かした創造的な工夫を感じ取り、見方や感じ方を深めている。 （Ｂ鑑賞(1)ア(ア)）	・意図に応じた表現方法を工夫したり、相互鑑賞を通して他者の考え方に触れたりすることで学習活動に価値付けをしている。

６　学習指導計画

（１）アイディアスケッチ　・・・・・・・・・・・・・・・・・３時間
（２）制作　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６時間
（３）鑑賞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間（本時）

７　本時の学習指導

（１）目標

① 空間表現の方法を理解し、素材の特性を生かして意図に応じて表現することができる。
② 相互鑑賞を通して他者の考え方に触れることで自身の学習活動に価値付けをしている。

（２）学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	教師の指導の工夫・評価
１　本時の学習課題を確認する。 ①インスタレーションについて ②表現者と鑑賞者	・触る、見る、息を吹きかける、聴く、影を作る、貼る、モダンテクニック　など ・自分の感覚、感性で体験して、感じたことを伝えること ・相手を知ろうとすること	・これまでの制作過程を振り返り、「表現者のねらい」や「鑑賞者の気付き」をつかめるように促す。 ★ **どこに作者の意図があるか？リアクションカード**を使って選択肢を示し、全員が作品に対するリアクションを行うことで学習課題に向き合えるよう促す。
作者が表現しているのはどのような感情だろう？		
３　作品を鑑賞する。 ①机にある他クラスの作品を鑑賞し、気付きをリアクションカードにを書く。 ②他の作品を鑑賞し、互いの気付きをリアクションカードに書く。	・この表現、おもしろい！ ・友達の頭の中を見てるみたい ・同じ考えの人いたんだ。 ・自分はこういう部分に美しさを感じるのか。 ・ねらいは○○だと思う。 ・素材の性質を生かして○○を表現しているんだ。 ・○○の感情を形で表現する人もいればピンと張った糸で表現する人もいる。	○　事前に「表現者の思い」ポップを制作しておく。 ◎　鑑賞の視点を絞ったリアクションカードを用意し、生徒が作品のどの部分に反応したのか明確にできるよう促す。 ◎　選択した反応を根拠に作者の表現の意図を考えさせることで自らの学習への価値づけや新たな気付きにつながるようにする。
４　本時の学習を振り返り、自分にとって「美術の学び」とは何かを考える。 ①自分と他者との反応の違いについて考える。 ②美術を学ぶことは自分にとってどんな意味があるか考える。	・他の鑑賞者との感じ方の違いに気づいた。 ・作者と自分との表現の違いに気づいた。 ・美しく表現する術を知る。 ・互いの考え方に触れること。 ・何を美しいと思うか美的判断基準を得ること。 ・マンガやアニメは好きだが、美術はやっぱり分からない。 ・想(創)像力は個々の経験に支えられている。これからも磨いていきたい。	・　鑑賞で得た意見をもとに自分なりの「美術の学び」に対する価値付けを書き込むことができているかを評価する。（Ｂと判断する状況） ・　Ｃと判断する状況の生徒には、リアクションカードにある意見から選ぶよう助言する。 ・　生徒が自分の知的財産として学びの価値付けを得られるよう教師は肯定的に捉える。